



令和7年10月23日(水) 特別号

全国学力・学習状況調査結果より

全国学力・学習状況調査は、①「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証して改善を図る」②「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善策に役立てる」ことを目的とし、全国の小学6年生、中学3年生を対象に、毎年実施されております。本校では、お子さまの学習及び生活状況の把握・分析を通して、今後の授業改善や生活指導等に生かしていくとともに、分析結果をご家庭や地域へ発信することにより、お子さまの様々な資質・能力を、家庭・地域のご協力を得ながら育みたいと考えております。



1 国語における学力の傾向と分析

(全国平均正答率を若干下回りました)

- 本文からの語句の抜き出しや、与えられた選択肢をもとに考えることはできています。
- △全般的に選択肢の問題についての正答率が高いですが、記述問題では正答率が極端に低くなる傾向にあります。
- △どのように説明したらよいか、どのような工夫をしたらよいかということは漠然と理解できていても、それを説明するための表現力が不足している傾向にあります。
- △記述ができていても、必要な事項が欠けていたり、ねじれ文や接続詞がなかったりする部分が多くみられます。自分の文章を見直し、推敲する力も不足気味です。



【授業改善への取組】

- ・自分の考えを表現できる力を身に付けるために、漢字の学習も含めて、語彙力を増やせるよう指導を継続していきます。
- ・授業において「書く」時間を大切に、自分の文字や文章を見直す機会を増やしていきます。条件を満たしながら文章を作成する機会を設定し、文章表現力が身につくように指導していきます。
- ・さまざまな場面で交流する機会を増やし、効果的な表現の工夫について学べるよう指導していきます。

2 数学科における学力の傾向と分析

(全国平均正答率を大きく下回りました)

- 「数と式」「図形」「グラフの読み取り」の知識・技能をもとめる問題については正答率が比較的高い傾向にあります。(正答率5～6割)
- 「確率」の不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率は比較的高い傾向にあります。(正答率5割程度)
- △「相対度数」についての知識・技能を求める問題の正答率は低い傾向にあります。(正答率1割程度)
- △「統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善する」問題の正答率が低い傾向にあります。(正答率2割程度)
- △「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を使って説明する」や「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」など筋道をたてて考え、証明(説明)する、思考力・判断力・表現力を要する問題は正答率がさらに低い傾向にあります。(正答率1割程度)

【授業改善への取組】

- ・「数と式」や「関数」領域の簡単な知識や技能を問われる問題の正答率は比較的高く、文字を使った説明や図形の証明に関係のある問題についての正答率は低い傾向にあります。どの領域においても、記述を求める問題は、無回答者が全体の3～5割ほどいる状況で、説明や証明に対しての苦手意識が強い生徒が多いと考えられます。授業の中で、分析や考察、自分の考えを筋道をたてて説明したり書いたりする場面をより多く設定しながら授業を進めていきます。



3 理科における学力の傾向と分析

- 気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかを問う問題や、実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る問いについては正答率が高い傾向にあります。（正答率9割以上）
- △「考察」をより確かなものにするために、知識及び技能を活用し、予想される実験の結果を適切に説明する問題の正答率が低い傾向にあります。（正答率2割未満）
- △仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる問題の正答率が低い傾向にあります。（正答率3割未満）
- △気圧について科学的に探究する場面において、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる問題の正答率が低い傾向にあります。（正答率3割程度）



【授業改善への取組】

- ・知識や実験の技能を問われる問題の正答率は比較的高い傾向にありますが、考察をして説明する問題や、仮説を立てて科学的に探求する問題、多面的・総合的に分析し、解釈する問題の正答率は低い傾向にあります。授業の中で考察や分析、結果の説明をできる場面を取り入れ、授業改善に取り組んで行きます。

4 生徒質問より（主な質問項目に対する回答）

- (1) 朝食を毎日食べていますか。
→ 食べている どちらかといえば食べている (90.9%)
- (2) 自分には、よいところがあると思いますか。
→ あると思う どちらかといえばあると思う (93.9%)
- (3) 人が困っているときは、進んで助けることができますか。
→ できている どちらかといえばできている (89.4%)
- (4) 将来の夢や目標をもっていますか。
→ もっている どちらかといえばもっている (74.3%)
- (5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
→ そう思う どちらかといえばそう思う (98.5%)
- (6) 学校に行くのは楽しいと思いますか。
→ 楽しい どちらかといえば楽しい (83.3%)
- (7) 平日、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
※学習塾・家庭教師などの時間も含む
→ 3時間以上 (4.5%) 2～3時間 (18.2%) 1～2時間 (21.2%)
- (8) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができると思っていますか。
→ できている どちらかといえばできている (77.2%)



【生徒質問の結果より】 ※4/16調査より

生徒質問は全74項目ありますが、生活習慣を問う質問（睡眠時間の確保等）につきましては、肯定的な回答が8～9割以上でした。（2）～（3）の回答からは、自己肯定感を高くもち、仲間と助け合いながら生活できている様子がうかがわれます。「いじめ」については、絶対にあってはいけないことの回答が100%となるよう、日常の教育活動の中で道徳心や相手を思いやる心の育成に努めるとともに、子ども主体のいじめ撲滅の活動に取り組んでおります。学習面については、夢や目標をもって主体的に学習に取り組む態度の育成に努めておりますが、今後一層、一人一人の良さや可能性が存分に発揮されるよう、教育活動の工夫・改善を進めてまいります。